

# 中長期滞在者の個人的体験による ヴェネツィアの風景に対する印象の変化

1X20D064-7 原本終\*

初めて訪れる都市の風景が時間の経過と共に日常のものとなる過程で、人々はその印象をどのように変化させていくのだろうか。本研究では、世界的に有名な観光地であり水運都市として特徴的な歴史的景観を持つヴェネツィアを対象地に、観光客としての視点と住民の視点を併せ持つ中長期滞在者としてヴェネツィア内の大学に通う留学生にアンケート調査とインタビューを実施した。ヴェネツィアの風景写真の印象評価から“ヴェネツィアらしい”風景を特徴づける景観構成要素を把握した。また、回答者が撮影した滞在初期および後期の風景に対する印象を象徴する写真から、撮影対象物と撮影理由の類型化を行い、印象の変化を導き出した。インタビューでは、個人の体験に伴う具体的な変化の過程を明らかにした。すなわち、観光地としての客観的な美しさを重視する初期の印象は、日常的な体験が蓄積されていく中で、主観的な価値観に基づくものへと変化していくのである。

*Key Words : Venezia, Photo analysis, Change in impression of scenery, Personal experience*

## 1. 序論

### (1) 研究の背景

初めての土地を訪れたとき、思わず写真に収めたい風景がある。旅行のガイドブックには必ずその土地ならではの絶景スポットを指南するページがあるほど、人々は特別な風景に感動を求めている。そういった旅をはじめ、日々の暮らしの場から離れた場所を訪れる時、非日常性を最も感じた風景をその場所に対する「第一印象」として記憶すると思われる。しかし、繰り返しその場所を訪れ、その場所を拠点として一定期間以上滞在した場合には、非日常的であった風景が日常のものに変わっていく。以降これを「風景の日常化」と呼ぶ。この日常化の過程では、風景をより高い解像度で捉えるようになり、ディテールにも目を向けるようになっていく。また、新鮮な感情の影響を強く受ける第一印象が、その地で中長期的に積み重ねられていく思い出や生活習慣によって変化していくと考えられる。

### (2) 研究の目的

本研究は、世界的に有名な観光地でありユニークな自然環境と都市景観を持つイタリアのヴェネツィアにおいて、本島およびその周辺の島々を対象に、1ヶ月以上の中長期滞在者であるヴェネツィアの大学に通う留学生を対象として、風景に対する印象評

価と時間の経過に伴うその印象の変化を明らかにすることを目的として、アンケート調査およびインタビューを実施する。

### (3) 既存研究の整理

既存研究には、研究対象地である a)ヴェネツィアの都市空間に関する研究、b)風景の認識に着目し写真から景観の類型化を行なった研究、c)異なる主体間での風景の認識を比較した研究がある。

#### a) ヴェネツィアの都市空間に関する研究

水都ヴェネツィアの都市史については、陣内の40年蓄積された一連の研究<sup>1)</sup>で都市構造、都市機能やその歴史の変遷が明らかになった。現代のヴェネツィアの街路空間に関しては、三浦の街路形態の特性把握の研究<sup>2)</sup>や街路空間における人の探索行動時の注視行動や経路選択に関する研究<sup>3)</sup>、客野ら<sup>4)</sup>の建築境界部の緑の表出が街路公共空間に与える影響と人の公共空間に対する空間的な働きかけを明らかにした研究などがある。

#### b) 風景の認識に着目し写真から景観の類型化を行なった研究

平尾ら<sup>5)</sup>は写真展に応募された写真を対象として、「好ましい景観」について色や構図のみならず、情緒的かつ文化的側面についても質的調査を合わせることで明らかにしている。神谷ら<sup>6)</sup>は世界10都市の観光ガイドブックに掲載された画像を対象として、

\*早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 景観・デザイン 佐々木葉研究室 学部4年

写真が持つ「らしさ」の機能が異文化に向けた大衆イメージの多角的な表現方法であるとし、その掲載された写真の構図に着目して分析を行っている。

#### c) 異なる主体間での風景の認識を比較した研究

黒田ら<sup>7)</sup>は合掌造りの家屋等歴史的な景観を持つ観光地である白川村荻町を対象として、観光客と住民の景観の捉え方の差異を明らかにするために実空間に基づいたデータとして写真撮影調査を用いて比較研究している。安藤ら<sup>8)</sup>は岩手県軽米町を対象として住民と転出者と来訪者の異なる三主体による調査から街の景観イメージ構造を把握している。研究方法として対象地域で撮影した景観写真のグループングや写真の好き嫌いの5段階による印象評価などの視覚的イメージ調査を行なっている。

#### (4) 本研究の位置づけ

従来、住民と来訪者の風景の捉え方を比較した研究や観光地や住宅街のどちらか一地点を対象として人々の風景の捉え方に着目した研究は多く見受けられたが、同一の主体を対象としてその風景の捉え方と印象の変化に着目した研究は少ない。

多くの研究が住民と来訪者などの異なる主体間での一時的な風景の認識の差異に着目している一方で、本研究ではアンケート調査より、単一の主体である中長期滞在者に限定して時間のつながりの中での非

1	序論と研究対象の概要
2	アンケート調査の概要
3	ヴェネツィアの風景に対する印象評価
4	個人の体験に伴う風景に対する印象の変化の類型化
5	インタビュー調査
6	結論

図-1 本研究の流れ



図-2 ヴェネツィア本島の地図(著者作成)

日常的側面を捉えた頃と日常的側面を捉えるようになった頃の各時点での風景に対する印象評価と、時間の経過に伴うその印象の変化の特徴を明らかにし、インタビューでその詳細を把握する。本研究の構成として図-1に本研究の流れを示す。

#### (5) 研究対象の概要

##### a) 対象地ヴェネツィアの概要

イタリア共和国北東部ヴェネト州の州都ヴェネツィアは、潟内に100を超える人工の島々が存在し、交通手段はボートと歩行のみである。迷宮のように入り組んだ水路や大運河が織りなす歴史的水都の景観が特徴的である(図-2)。

東西に広い本島は中心部をカナル・グランデという大運河が逆S字に流れており、西端には大陸から接続するSanta Lucia駅や車両の侵入が可能なRoma広場、中心部にはSan Marco寺院、東端にはVenice Biennaleの会場であるArsenale地区やGiardini地区が位置している。

##### b) 対象者の概要

調査対象者を中長期滞在者に限定した理由としては、観光客はその場所に対する解像度は低く漠然とした風景の見方をするが、新鮮な目で風景を見ることができるという特徴を持ち、一方の住民はその場所に対する解像度は高く、より広い視野を持っているが日常的で当たり前の風景と捉えてしまうという特徴を持っていると考えられ、これに対して、中長期滞在者はその両側面を持っていると仮定し、印象の変化を明らかにできると考えた。

## 2. アンケート調査の概要

### (2) アンケート調査の概要

2024年5月22日～2024年6月15日の期間にヴェネツィア出身ではなく1ヶ月以上の滞在経験を有する中長期滞在者としてヴェネツィア内の大学に通う留学生を対象にアンケート調査を実施した(表-1)。

アンケートは回答者の属性、個人の体験に伴う風景に対する印象の変化、風景写真に対する印象評価についての3つのセクションで構成した(表-2)。

### (3) 回答者属性の集計結果

回答者の属性・基本情報に関するセクションでは、回答者のうち93%が20代であり、ヴェネツィアでの滞在期間は3ヶ月～1年間滞在した人が多く、国籍はヨーロッパ・アジア圏を主とした24カ国からの留学生で構成され、生育環境としては現代的景観を持つ大都市と地方都市出身が3割以上を占めつつも

表-1 アンケート調査の実施概要

対象者	ヴェネツィア内の大学に通う留学生 ・ Venice International University ・ Universita LUAV di Venezia ・ Universita Ca' Foscari Venezia
アンケート形式	Google Form
配布方法	WhatsApp, Instagram DM
配布期間	2024年5月22日-2024年6月15日
配布数	200部
回答数	82部(回収率41%)

表-2 アンケートの構成

第1セクション	属性・基本情報 ・ 年齢, 国籍, 生育環境, 滞在期間, 風景への興味
第2セクション	個人の体験に伴うヴェネツィアの風景に対する印象の変化の類型化 ・ 滞在以前に抱いていた印象 ・ 滞在初期に抱いていた印象 ・ 滞在後期に抱いていた印象 ヴェネツィアに対する印象を反映した写真のアップロードとその詳細の説明に関する設問
第3セクション	ヴェネツィアの風景写真に対する印象評価 ・ 形容詞対の5段階評価による印象評価 ・ “ヴェネツィアらしさ”の自由記述による印象評価 ヴェネツィアで著者が撮影した6枚の風景写真と5組の形容詞対を5段階評価により回答

表-3 回答者属性の概要

年齢層							
10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89
1	76	4	1	0	0	0	0
滞在期間							
-1month	-2month	-3month	-4month	-5month	-6month	-7month	-8month
0	0	15	14	2	7	2	4
-9month	-10month	-11month	-1year	-5year	more than 5y	Other	
12	7	0	7	5	2	5	
国籍							
Italy	Japan	United Kingdom	South Korea	France	United States	China	Germany
15	10	8	8	7	6	5	4
Russia	Brazil	Hong Kong	Greece	Mexico	Belgium	Norway	Malaysia
3	2	1	1	1	1	1	1
Slovenia	Turkey	Moldova	Ethiopia	North Macedonia	Israel	Kazakhstan	Bangladesh
1	1	1	1	1	1	1	1
生育環境							
Metropolitan	Metropolitan	Local city	Tourist spot	Green (Mountain)	Water (Sea, River)	Other	
34	8	34	10	14	14	3	

観光地や自然豊かな環境で育った人も2割ほどいることが明らかになった(表-3)。

### 3. ヴェネツィアの風景写真に対する印象評価

ヴェネツィアで著者が撮影した風景写真を対象に印象評価を問うたアンケートの第3セクションの調査結果から、形容詞対による印象評価についてはSD法を用いて写真間の特徴の差異を把握した。なお、その風景写真毎に自由回答形式で質問した“ヴェネツィアらしさ”の印象評価についてはKH coderを用いて分析し、“ヴェネツィアらしい”風景を特徴づける景観構成要素を導き出すことによって第4章における撮影対象物の分類の基礎とした。

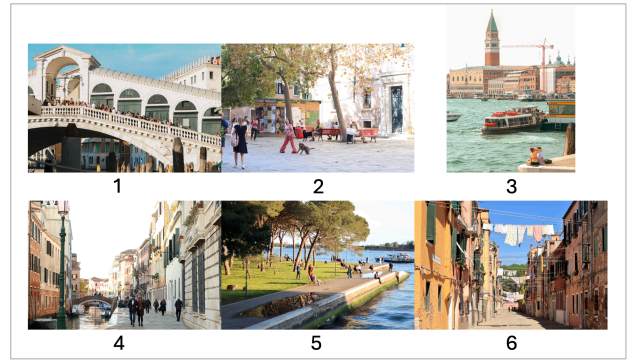


図-3 印象評価 選定写真

表-4 因子負荷量

	因子1	因子2
A) Natural ↔ B) Artificial	0.746	-0.011
A) Open ↔ B) Cramped	0.814	-0.014
A) Bright ↔ B) Dark	0.543	0.510
A) Lively ↔ B) Quiet	-0.119	0.842
A) Tidy ↔ B) Mess	0.549	-0.373

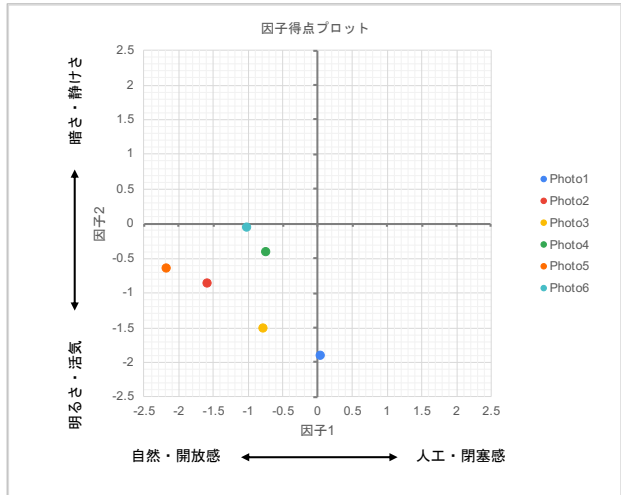


図-4 因子分析結果 因子得点プロット

#### (1) 形容詞対の5段階評価による印象評価のSD法を用いた分析

風景写真6枚と5段階評価によって5組の形容詞対を選ぶ印象評価を行った。写真は観光スポットとそれ以外のエリアなどのそれぞれ特徴の異なるものを選定した(図-3)。SD法の直接バリマックス回転法を採用して因子分析をした結果、因子負荷量行列が得られ(表-4)、風景写真毎の因子得点プロットのグラフに示す評価軸が得られた(図-4)。縦軸が明るさ・活気に関する指標で、横軸が自然・開放感に関する指標で構成された。全6枚の写真が「明るさ・活気」と「自然・開放感」がある傾向が読み取れる。実際に「自然-人工」「開放感-閉塞感」の2組の形容詞対の評定平均値の大きい順に写真を並べ替えると、図-5, 6のように写真の並び順に共通性が見られ、形容詞対間の類似性が確認できた。

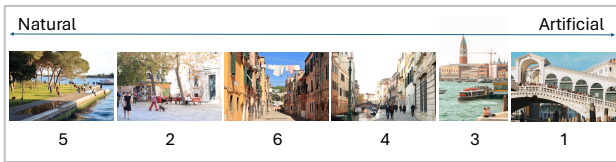


図-5 「自然-人工」の平均値による写真の整理

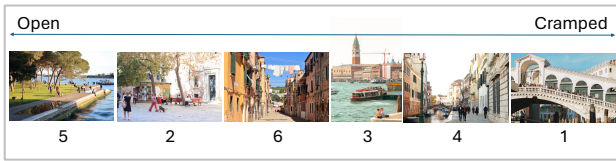


図-6 「開放感-閉塞感」の平均値による写真の整理

## (2) “ヴェネツィアらしさ”の自由記述による印象評価のKH coderを用いた分析

(1)と同様の風景写真を評価対象として、「ヴェネツィアらしさ」の印象評価を自由記述により行った。各写真が「ヴェネツィアらしい」と判断した場合にはそれを印象づけている具体的な要素を挙げてもらい、KHcoderを用いた分析結果として、各6枚の写真に対してこのような頻出単語が抽出された(表-5)。なお「ヴェネツィアらしくない」という場合にはNoと回答してもらった(表-6)。表-5と対応させて考察すると、表-6よりヴェネツィアらしい写真の順番はPhoto 3,4,1,6,2,5となるが、前半のPhoto 1,3,4については表-5より「tourist/typical」の単語が共通して見られ、Photo 2,5,6では「life/live」が共通して見られたことから、観光スポットや典型的な景観が「ヴェネツィアらしさ」として評価されていると考えられる。よってこの節で導かれた、各風景写真の特徴づける景観構成要素や印象評価の特徴を踏まえて次章の対象物を判別する際の指標の一つとする。

## 4. 個人の体験に伴う風景に対する印象の変化の類型化

表-5 KH coder より得られた各写真の頻出単語

写真番号	頻出単語
Photo 1	Rialto bridge, tourist, venetian, crowd, landmark
Photo 2	venetian, daily, life, people, bench, dog, campo
Photo 3	vaporetto, water, boat, San Marco, building, tourist, lagoon
Photo 4	canal, bridge, building, people, typical, scene, street, water
Photo 5	Venice, not, vaporetto, green, live, people, peaceful, venetian
Photo 6	hang, clothes, laundry, house, street, very, venetian, life

表-6 各写真において“ヴェネツィアらしくない”と回答した数

写真番号	1	2	3	4	5	6
回答“No”の数	11	27	2	6	28	18

表-7 に印象の変化に関する単純集計結果を示す。滞在初期の印象と(First Impression)と後期の印象(Latest Impression)を象徴する写真のアップロードの設問では、屋外空間の写真という条件を設定していたため、有効回答数は72件として分析を行った。

### (1) 撮影対象物による写真の類型化とその変化

撮影対象物に基づく写真の類型化では、自由記述の内容と写真を3章で得られた各風景写真を特徴づける抽出単語と対応させて対象物を特定した(表-8)。大別すると水路や運河など人工的な水都の風景である「Canal」、観光名所やヴェネツィアの象徴的なものを捉えた「Sightseeing」、湯や太陽に着目した「Nature」、多様な視点による「Others」の計4種類である(表-9)。特に「Sightseeing」については神谷ら<sup>6)</sup>の研究で示されたガイドブックに見られるヴェネツィアの対象物を基準に分類した。調査結果から、

表-7 印象の変化の有無、撮影場所や撮影意図

滞在中のヴェネツィアに対する印象の変化の有無					
Definitely	Probably	Possibly	Probably Not	Definitely Not	
16	30	19	11	6	
写真の撮影エリアについて(第一印象)					
In San Marco	In Dorsoduro	In Cannaregio	In Santa Croce	In San Polo	In Castello
21	10	9	8	8	6
In Castello	In San servolo	On Rialto Bridge	Ponte dell'Accademia	San Giorgio Maggiore	Rio Novo
6	4	2	2	1	1
In Murano	In Giudecca	Marco Polo airport	On the Vaporetto	On the airplane	
1	1	1	1	1	
撮影した理由(第一印象)					
美しい	ユニーク	色彩	想像の現実化		
66	35	32	17		
新たな発見	記録用	その他			
14	11	3			
写真の撮影エリアについて(最新の印象)					
In San servolo	In Castello	In Dorsoduro	In Santa Croce	In San Marco	In Lido
14	12	12	10	9	4
In Murano	In Burano	In Sant' Elena	In the lagoon	Rialto	In San Polo
2	2	2	1	1	1
In accademia	In Giudecca	on San Clemente	Torcello		
1	1	1	1		
撮影した理由(最新の印象)					
日常の風景	何度も目にした	美しい	ユニーク		
29	20	47	31		
色彩	想像の現実化	新たな発見	記録用		
30	2	9	14		

表-8 二時点における撮影対象物と分類

	First	Latest
<b>Canal</b>	Lagoonside	Lagoonside
	Canal Grande	Canal Grande
	Public waterway	Public waterway
	Narrow water way	Narrow water way
<b>Sightseeing</b>	Around San Marco	Around San Marco
	Gondolier	Gondolier
	San giorgio maggiore	
<b>Nature</b>	Lagoon with sun	Lagoon with sun
	Lagoon and land	Lagoon and land
<b>Others</b>	Night scape	Night scape
	Sunlight	Sunlight
	Plants	Plants
	Chiesa	Green
	From airplane	Acqua alta
	Modern architecture	Laundry clothes
	Foggy	Boat practice
		Unique ship
		Foggy
		Cityscape



表-9 撮影対象物による写真の大別と印象の変化

First	Latest	Canal	Sightseeing	Nature	Others	SUM
Canal	8	2	15	14	39	
Sightseeing	0	0	6	6	12	
Nature	1	1	4	6	12	
Others	0	1	0	8	9	
SUM	9	4	25	34	72	

滞在初期に最も多く見られた「Canal」, 「Sightseeing」の写真が、滞在后期には、「Nature」, 「Others」へ遷移したことが分かる。「Others」には、植栽や洗濯物など暮らしの風景や、夜景や高潮、霧などの気象や時間の移ろいの一部を切り取った写真、偶然目にした光景を捉えた写真がある。

考察としては撮影対象物の「Canal / Sightseeing」から「Nature / Others」への時間の経過に伴う変化については、滞在初期の First Impression では観光名所やヴェネツィアらしさを象徴する一般的な風景が多く選ばれていた一方で、Latest Impression では、時間の経過に伴う個人の体験の積み重ねにより、思い出や日常生活の中で見つけた特別な場所などからパーソナルで多様な対象物が増えたと考えられる。一方、「Nature」に該当するヴェネツィアの風景と夕日を捉えた写真や「Canal」に該当する水路にうつるは、滞在初期と後期の両方で一定数観察された。これは自然の美しさに対する感動は時間の経過に左右されないからであると考えられる。

(2) 撮影理由による写真の類型化とその変化

撮影理由についてはアンケート調査時に、複数選択式により分類した回答を自由記述による撮影理由をもとに6種類のタイプに大別した。タイプは自由回答から得られたキーワードに基づき、「想像の具象化」「今この場所にいる実感」「視覚的な美しさ」「新たな発見」「日常の風景」「思い出」とした(表-10)。考察としては、「想像の具象化」や「今この場所にいる実感」といった撮影理由が滞在初期の半数以上を占めていたのに対し、後期には「日常の風景」や「思い出」といった理由が半数以上を占めた。

すなわち、風景に対する印象は、滞在初期には観光地としてのヴェネツィアに対して客観的に共有される価値が重視されていたが、中長期滞在中の個人的な体験や記憶の蓄積によって主観的な意味を帯びるように変質していったと考えられる。一方の「視覚的な美しさ」「新たな発見」については滞在初期後期のどちらにも見られる理由であるが、前節で分析した撮影対象物の類型化と対応させると、初期には「Canal」「Sightseeing」に該当する対象物が、後期

表-10 撮影理由による写真の大別と印象の変化

First	Latest	想像の具象化	今この場所にいる実感	視覚的な美しさ	新たな発見	日常の風景	思い出	総計
想像の具象化	0	0	4	5	8	5	22	
今この場所にいる実感	0	0	3	5	7	7	22	
視覚的な美しさ	0	0	3	1	10	5	19	
新たな発見	0	0	0	5	3	1	9	
日常の風景	0	0	0	0	0	0	0	
思い出	0	0	0	0	0	0	0	
総計	0	0	10	16	28	18	72	

には「Others」もしくは「Nature」に該当する写真が観察され、撮影理由は同じでも具体的な撮影対象物は変化していることが明らかになった。

5. インタビュー調査

第3,4章の分析結果より、風景が単なる観光地の景観としての記号的存在から、個人の体験の蓄積によって主観的な意味を持つものへと変化していくことが明らかになった。追加調査として回答者のうち5名に対してインタビューを行い、その個人の体験と印象の変化の過程について明らかにした。インタビューの結果を以下に整理する。

(1) 滞在以前の印象

国籍に関わらず8割の回答者が以前からメディアやガイドブック、ヴェネツィアをモデルにした場所などを介して「Disney land/ theme park/ fairy-tale」といった空想的な世界のイメージを持っていた。

(2) 滞在初期の印象(アンケートで選定した写真)

滞在以前に抱いていた風景に対する印象と、実際に目の前に広がっているサンマルコ広場周辺の建築や狭い水路などの水辺の風景が重なり、その特徴的な景観に新鮮さや驚きを感じたことが第一印象となった人や、住民が窓辺の植木の手入れをしたり、地元の人々がカフェで談笑する様子を目にし、ヴェネツィアが空想の世界ではなく実際に「暮らし」がある街だと発見し、現実感が増したと述べた人がいた。

(3) 滞在后期の印象(アンケートで選定した写真)

日常生活の中で発見するヴェネツィアの新しい側面が日々蓄積されていくことによって風景に対する印象は多様化していったことがわかった。日常の風景として愛着を持つようになったケース(下校時の船着場から見る夕日・静まり返った霧の中の朝)、その新たな側面を真のヴェネツィアらしさとして捉えるようになったケース(年季が入り色褪せた建物の壁面・観光客を脅かすウミネコ)、観光客として友達

が来訪した際に、自分の日常がその風景の中にあることを再認識したケースなどが見られた。

#### (4) 印象の変化の過程

対象者の8割が、印象の変化を感じた時期として1ヶ月前後と回答し、その後日常生活を積み重ねるにつれて徐々に印象が変化していく過程が明らかになった。具体的には6割の人は初期の頃に建物や水路といった静的なヴェネツィアの風景に対して抱いていた感動が薄れ、それらの風景を背景に繰り広げられる、人々の動的な場面や天候や時間帯に左右される偶発的な光景に意識が向けられるようになっていった。また、何気ない風景に感動した体験をきっかけに風景による感情の変化に興味を持ち、より詳しく風景を見るようになった人もいれば、滞在期間中の授業での学びを通じて視点が変化し、街中の落書きや子どもの姿に注目するようになった人もいた。

結果として、インタビューからも前章の分析結果から考察した印象の変化の特徴に沿った発言が得られ、より具体的に個人の体験とその印象の変化の過程が明らかになった。

## 6. 結論

本研究では、中長期滞在者であるヴェネツィア内の大学に通う留学生を対象に、アンケート調査とインタビューを実施し、ヴェネツィアの風景に対する印象評価では特徴の異なる6枚の風景写真に対して「ヴェネツィアらしさ」を特徴づける景観構成要素を導き出した。個人の体験に伴う印象の変化の類型化では、写真分析とテキスト分析より滞在初期から後期にかけて、撮影対象物が「Canal/Sightseeing」から「Nature/Others」へ、撮影理由が「想像の具象化/今この場所にいる実感」から「日常の風景/思い出」へと変化するという「風景の日常化」の特徴が明らかになった。インタビューではこれらの分析結果の裏付けとなる個人の体験に伴う印象の変化の過程についての発言が得られた。

つまり、初めて訪れる場所の非日常的な風景が時間の経過と共に日常の風景になっていく「風景の日常化」の過程は、滞在初期には観光名所や象徴的な景観など、一般的に美しいとされる風景が撮影対象の中心であり、ヴァーチャルであった場所に自分が居るという実感や想像していた風景を具象化する目的で撮影された写真が多く見られ、風景に対して客観的な価値を重視する傾向が顕著であった。しかし、時間の経過とともにその地での個人の体験が蓄積されていくことにより、記憶や心理、感情が反映され

た日常の風景が強調されるようになり、風景に対して抱く印象が主観的な価値観に基づくようになった。

すなわち、風景写真を撮影するという行為が、観光地として象徴的な魅力を記録するものから、個人の体験や感情を表現するものへと変化し、風景に対して抱く印象も個人的体験が投影されたものへと変化していくのである。

近年の「映え」志向の現代社会では、誰にでも分かりやすい「表面的な美しさ」が重視されることが増えてきていると感じる。しかしながら、普遍的に存在する自然との関わりの中かで時間の経過とともに個人の記憶や感情が投影されることで生じる風景の美しさにも配慮することによって、景観デザインは、人にとって居心地の良さや愛着を生み出し、場所をより豊かで奥深いものへと変える力を持つのではないだろうか。

#### <参考文献>

- 1) 陣内秀信, 高村雅彦: 水都学 1, 法政大学出版局, 2013.
- 2) 三浦金作: 街路形態について: ヴェネツィアの都市空間に関する研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 68, No. 564, pp. 235-242, 2003.
- 3) 三浦金作, 佐野浩史, 田邊和義: 歩行経路選択と探索行動: 街路空間における探索歩行時の注視に関する研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 68, No. 569, pp. 131-138, 2003.
- 4) 客野尚志, 加藤晃規: ヴェネツィア・サンタクロッチェ地区における街路公共空間と緑の表出の空間的関係, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 80, No. 710, pp. 883-893, 2015.
- 5) 平尾和洋, 宮嶋聡, 川崎清: 「好きな景観」写真展にみる景観読解過程と景観タイプ, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 60, No. 472, pp. 123-132, 1995.
- 6) 神谷文子, 浦山益郎, 北原理雄: 主題要素の写され方からみた都市景観写真の構図に関する研究: 欧米10都市の観光ガイドブックを事例として, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 65, No. 528, pp. 179-186, 2000.
- 7) 黒田乃生, 羽生冬佳, 下村彰男: 写真撮影調査による観光客と住民の景観認識の差異, 都市計画論文集, Vol. 37, pp. 961-966, 2002.
- 8) 安藤昭, 佐々木貴弘, 赤谷隆一, 佐々木栄洋: 住民・転出者・来訪者からみた岩手県中山間地域における町のイメージ構造, 都市計画論文集, Vol. 32, pp. 475-480, 1997.